

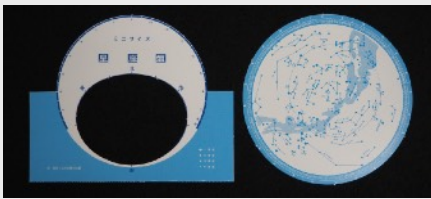
天体観測には欠かせない 星座早見盤

Planisphere

気軽に星空観察をしたいと思ったとき、手元にあると便利なのが星座早見盤です。見たい日時 of 星空の様子を簡単に知ることができ、しかもサイズが手ごろで置き場所にも困りません。この星座早見盤はとても多機能な道具で、太陽や星が出没する時刻や方位、南中する時刻などいろいろな情報を教えてくれます。また世界中で発売されていることから、海外旅行のおみやげとしても魅力的です。

● 構造と基本の使い方

星座早見盤は、①星図と日時目盛が描かれたディスク（左写真の右）、②時刻目盛を描き、見える星空の窓をくり抜いたディスク（左写真の左）、の2枚を重ね、天の北極（または南極）点で留めています。見たい日時 of 星空を知るには、2枚を回転させて日時目盛を合わせ（右写真）、窓に表示された星図を見ます。



星座早見盤を構成する2つのパーツ



日時目盛を5月21日午前0時に合わせた

● いろいろな使い方

星星座早見盤には多くの機能があります。

- ① 天体の出没時刻と方位を知る：知りたい天体を東または西の地平線上に置き、日時目盛と方位を見ます
- ② 天体の南中時刻を知る：知りたい天体を真南に置き、日時目盛を読みます
- ③ 他にも、南中高度目盛や天球上の太陽の位置があれば、さらに多彩な使い方ができます。



しし座の一等星レグルスが東の地平線から昇る時刻を知るときは、レグルスを東の地平線上に置き、その時の日時目盛を読み取る。

● 星座早見盤の歴史とアストロラーベ

星座早見盤の歴史はよくわかっておらず、17～8世紀頃に現在のものと同じ構造のものが出回り始めたようです。

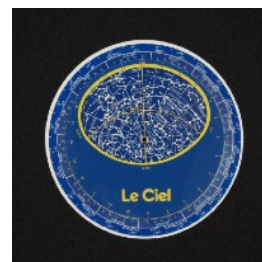
星座早見盤のルーツと言われているのがアストロラーベという観測機器です。アストロラーベは古代に発明されたとされる古い機器で、天体の高度を測定する機能のほか、主な恒星の任意の日時における位置や出没時刻などを知ることができます。特に後者の機能は星座早見盤と共通しています。詳細にみると星座早見盤とアストロラーベは異なる点も多いですが、両者の関係性が注目されます。（▶アストロラーベの展示パネルもご参考にしてください）



アストロラーベ（模型）
大阪市立科学館所蔵

● 世界の星座早見盤をおみやげに

星座早見盤は、身近な天文教具として、世界のさまざまな国や地域で販売されています。販売されている場所により、用いられている言語や星空の見え方が異なりますし、デザインに土地柄が出ることもことから、海外旅行のおみやげに適しています。海外旅行に行かれる際は、現地の書店や博物館などで探してみてもいいかもしれません。



フランス（左）とオーストラリア（右）の星座早見盤